

「一年経つのは早い」

よく耳にする会話です。「一年が経つのは早いなあ。もう一年が終わってしまったなあ」と。そう言えば、自分もこんなことを知らず知らずのうちによく口にしています。

先日職場の若い女性達から、おもしろい会話を耳にしました。「一年経つのは早い」にまつわる会話です。

この時はちょうど一般的にいう年度末にあたり、特に業務上では一年の終わりの時期にあたります。忙しく年度末の仕事をこなしている彼女たちは、「もう一年が終わってしまうねえ」。「そうやね、一年って早いね」とお決まりの会話です。するとその中の一人が「この前、テレビでタレントさんがこんなこと言っとったよ」と話を始めました。「旅行に行くでしょ。行きは景色も、何もかもが初めて見るものばかり。周りの景色や光景、かかわる人も、かかわる物も初めてのことが次から次へと現れる。びっくりしたり、感動したり、喜んだり、ひとつひとつに反応する。次に何が来るかなあとワクワクの連続で目的地に着く。けれど帰りのことを考えてごらん。見るものは大抵行くときに見たものばかり。旅の大きな目的も果たし、景色もさあーと見過ごして行くだけ。だから、あっという間に家に着いてしまう」と。するともう一人の人が「そう言えば、仕事も何年かは、見るもの、聞くこと、やること、全てが初めてのことばかりで、次から次へと難問を超えて、ようやく一年が過ぎるという感じで、早いも遅いも感じる余裕がなかったなあ。でももしかしたら、人生も一緒なのかなあ」と、みんなで納得している様子。そうです。人生もそうなのかもしれません。人生も旅行の帰り道と同じように、見るもの、聞くこと、すること、成すことが経験済みで、全て分かっていると思いつつながら毎日を過ごしていると、一日、一ヶ月、一年は、あっという間に過ぎていってしまうでしょう。そうした時、私たちはこの人生をどう生きたらよいのでしょうか。誰かに代わってもらうことも、代わることもできないこの人生を、あなたらしく輝いてくださいと、いつも私に願い続けてくださっているそのお声に、耳を傾けていきたいと思います。